

# 守り・育て・活かす 私たちの森づくり

市の面積の半分以上が森林であることを  
あなたはご存知ですか。

きれいな水や空気…これらを育むのは森林です。

森林が人を守り、地球を守ります。

そんな森林を守ることは、私たちの暮らしを守ること。

しかし今、森林の荒廃が進んでいます。

人と森林の関わりを健全な姿で未来へと引き継ぐため、  
森林の現状を知り、森林を守り・育て・活かす

そんな取り組みや思いを通して、  
私たちにできることを考えます。



## 人は森林から 様々な恩恵を受けている

「森林を整備することは、不特定多数の人の命や財産を守ること。森林が持つ広益的で多様な機能は計り知れませ

ん」  
そう話すのは、滋賀北部森林組合長の石谷八郎さん。石谷さんが話す「森林の機能」とは、雨水を地中に保持し、ゆっくりと河川に流すことにより、洪水や濁水を防止する「水源涵養機能」をはじめ、地球温暖化の防止や生物多様性の保全、レクリエーション機能など、さまざまな働きがあり、私たちはその恩恵を受けています。

そんな森林が今、荒廃しています。「昭和30年代から外材の輸入が自由化されたことで、日本の林業は衰退していききました。安く手に入る外材がもてはやされ、国産材が売れなくなり、森林に人の手が入らなくなってしまうました。眼に見える経済的価値を失った森林は、整備されないまま放置されるようになってしまったのです。その結果、野生獣が里山まで下りてきて、木の皮剥や農作物被害を発生させています」



▲放置された森林。間伐されていないため、一本一本が細く、折れている木も目立つ。

▼整備された森林。重機が通れるよう、作業道が設けられている。一度作れば今後の整備や伐採・搬出が容易になる。



## 管理しないツケは 50〜100年後にやってくる

こうした現状に石谷さんは大きな危機感を抱いています。「そもそも、『伐っては植える』を繰り返すのが林業です。

きちんと間伐などの作業を継続しなければ森林は荒れ放題になり、そのツケは50〜100年後にやってきます。森林の荒廃で私たちが失うものは、あまりにも大きい。そのことを多くの人に知ってもらい、今からその対策をしなければ」

そのためには、林業として成り立つよう山主、事業者、行政そして消費者である市民が協力し合い、経済的に利益を生む仕組みを作っていくなくてはなりません。また、山主さんの高齢化や世代交代で山の境界がわからなくなれば、整備が難しくなるため、境界を明確にする作業を早急に行う必要があります。組合では、組合員所有の山の境界を明確にして、衛星を利用したGPS測量を行い、地図情報システムに長期保存する事業に取り組んでいます。

## 子どもたちにこそ 森林の大切さを知ってほしい

「森林保全の意識を浸透させるため、まず子どもたちに森林の大切さを伝えたい」と石谷さんはいいます。

特に子どもの教育においては、市から委託を受けて組合が実施している森林環境学習「やまのこ」があります。これは長浜・米原両市の小学4年生が、「高山キャンプ場」とその周辺の森林で体験型の学習を行うものです。「子どもたちにこそ、森林の大切さを知ってほしい。木を切ることは悪だ」と思っている子どもも多けれど、間伐は絶対に必要。森林との付き合い方を伝えていき

たいと思っています。木に囲まれて育つことで、自然と木に親しみを持ってくれるのではないのでしょうか。「三つ子の魂百まで」と言いますから、子どもたちへの啓発活動は地道に続けていきたい」と語りました。

このように、森林はあらゆる生命の根幹と言えます。

市では「守り・育て・活かす」緑豊かな森づくりのため、6つの基本施策を設定し、森林の保全や活用を推進しています。（詳しくは市HPまで）  
それぞれの立場で行われている、森を「守り・育て・活かす」ための取り組みや、森づくりに対する想いを紹介します。



森林環境学習「やまのこ」の様子